平成 19 年度第 2 回太子町行財政審議会議事録

日時：平成 19 年 7 月 27 日（金）午前 9 時 30 分～11 時 30 分

場所：太子町役場 委員会室

平成19年度第2回太子町行財政審議会 議事録

1. 審議会の開催日時及び場所

日時：平成19年7月27日（金）

開会：午前9時30分

閉会：午前11時30分

場所：太子町役場2階 委員会室

2. 審議事項

水道料金の改定について

3. 委員の出席・欠席者

出席委員：門田 善二 森沢 栄彦 児嶋 正文 山本 俊博 富岡 敏明

森川 ちか子 伊藤 祐子 伊藤 道司

欠席委員：上田 裕彦

4. 事務局及び説明員

事務局：総務部長 佐々木 正人 係長 森川 勝

町出席者：経済建設部長 富岡 慎一

上下水道事業所長 西村 隆志 上下水道事業所参事 藤原 好信

5. 審議会経過及び結果

別紙にて記載する。

1. 開会

2. 議事録署名委員の指名

会長が児嶋正文委員と山本俊博委員を指名

3. 水道料金の改定について

事務局：平成17年度決算書について内容説明

会長：事務局の説明が終わりましたので、引き続き審議に入ります。ご質疑がございましたらどうぞお願いします。

山本委員：色々と説明されましたが、情報公開の中で決算書の基礎情報は一般町民に開示されるのか、9ページ、10ページの資産の部と負債の部、資本の部、とありますが6番の剰余金合計51億円が列記されているが、こういう数字が今後、表に出るのであれば、料金改定に対する抵抗も出てくるのかなと思いますかどうですか

事務局：51億円すべてが剰余金として抱えているものではありません。また、毎年の決算書につきましては公表しております。

山本委員：51億円もあるなら、一般のサラリーマンなら、これを取り崩せば、20年先までも、この料金そのまま行けると解釈しますので、だからこの貸借対照表が表に出た場合に、値上げしてから、こんな事だったのかと言われた時に困るなど思う。

事務局：資産剰余金の部ですが、基本的にはほとんどの金額が、建物、機械、構築物等、固定資産に変わっておりますので処分することはできません。運転資金として関係してくるのが、利益剰余金と流動負債ですので、51億円の一部が運転資金として回せるお金ですのでご理解をお願いします。

富岡委員：11ページの建設改良の方ですが石綿管がどれだけ有るのか、また、18ページの有収水量等がありますが、この中で料金を納めていない者がどの程度あって、どんな対応をしているのかを教えてください。

事務局：改良は下水道整備に伴うものが主なもので、石綿管は現在ほとんどありません。残っていますのは北配水地から下に降りて来る250mほどがあり逐次改良を考えています。滞納については、未収金で計上しているが、対応は納付誓約書を作成して、遅れながらも回収している状況で一部給水停止も実施しております。

山本委員：日本水道協会の水道料金算定要領に基づいて変更をされるようだが、料金体系の中で用途別、単一基本料金制と言ったものがあるが、そのメリット、デメリットを説明願いたい。

事務局：日本水道協会の水道料金算定要領に基づき総括原価方式によりまして、平成19年度から平成23年度までの5年間で単一基本料金逦増制を採用しています。この総括原価方

式は5年間の費用を基本料金と従量料金に区分して単価設定し、設定された料金をもって計算した料金収入額と総括原価が一致するものです。

一般家庭と工場を比較した場合、超過料金が5円だけの差であり、用途別にしている意味があまりないので、使用量に応じて単価設定する逡増制を採用し大口需要者に一定の負担をお願いし、一般家庭の負担の軽減を図ることを考えています。また、今回は大口需要者にもある程度、負担の軽減を図るには、単純な累進性の料金体制にする方が良いのではないかと考えています。近隣市町もその傾向が多いと考えています。

伊藤(道) 類：用途別の水量がありますが、用途の意味を説明してほしい。また、一般家事用の平均的な使用量の部分を緩和して大口使用者の逡増度をもっと上げててもよいのではないかと。

事務局：工場用は東芝太子工場だけです。業務用は家庭用以外の営業関係のものです。4段階の単価設定しておりまして、51トン以上が一定になっています。逡増度を大きくすると大口使用者の節水が進み、収入が減少するといった問題点があり、最近、他市町においても、大口使用者の節水が進んでいると聞いておりますので、本町においても使用量が減少することを危惧し、上げ幅、改定率を一定にしています。また、今まで工場用の料金収入が全体の1/3を占めており、一定の費用を大口需要者に負担していただいていた経緯もありまして、この単価設定としております。

会長：一般町民からするとなぜ今改定するのか、他の市町に比べればどうなのか、決定した時にその辺の説明を十分にしておく必要があるのではないかと。また、公営企業の健全な運営とはどのようなものかと。

山本委員：改定時期が1月の予定になっているが、使用者へのPR等から考えると4月でいいのではないかと。

事務局：企業の健全な運営ですが、地方公営企業は企業として住民のニーズに応じて拡大発展していく必要があり、このための施設の建設改良に要する費用については、その金額を借入によることは好ましいことではなく、一定部分は企業内部の留保資金を充てる必要があり、このため、料金は原価を償うだけでは不十分であり建設改良等に要する資金の一部が内部留保できるような運営が好ましいとされています。改定の時期ですが、SED新工場分の収益により累積欠損金を解消する予定でしたが、SED工場建設が中止されたため現行料金では累積欠損金が増大していきますので、少しでも早く解消するため1月としております。また、他市町と比べますとグラフのとおり、播磨町と似た線形になっておりまして5~20トンあたりが高くなっております。

森澤委員：合併の際の説明では、太子町は水道料金を上げなくても、やっていけるとの話だった。税金も上げなくてもよいと言う事で、単独を選ばれたにもかかわらず、一般家庭の料金が一気に上がるし、他の市町よりも高くなるのか。大口は安くても一般家庭は他の市町よりも高くなるのか。将来的な水源対策はどうなのか。

事務局：合併の際の議論は、実際には合併の議論の最中であっても収益的収支は赤字の傾向となっていました。その中で今回は料金改定をさせていただきたいと考えています。家庭用は、ご指摘の通り確かに高い設定ではないかと思う要素が見受けられますが、これは長年料金の見直しをしていない事が影響していると思います。ある一定部分は住民に負担をお願いせざるを得ないと考えています。水源対策については、現在、自己水源と県水を受水しています。県水については計画給水量が6,200トンであり、日量2,000トンを受水しております。将来的にも自己水源と県水で対応できるものと考えています。

伊藤(道)委員：企業への考え方と基本料金の考え方と一般家庭の料金をどうするかの3つのバランスを考えて貰いたい。起債の償還についても51年で7%もの今日考えられないような利子の起債をできるだけ繰上償還できるようにして貰いたい。

事務局：高利子の起債については、繰上償還に努めてきたが、繰上償還が出来る規模ではない事で今の状態が続いています。

今後、できるだけ借金を増やさないように努力したいと考えております。

色々な角度から検討した結果により、改定案として諮問させていただいております。

富岡委員：グラフを見ると、少量の部分のほうが改定率が高いが区分ごとの率を説明してほしい。いずれにしても、基本は安心、安全な給水が第一条件であり、これが水道事業の使命であると思うがどうですか。

事務局：改定率については、家庭用で1ヶ月当たり10トンで57%、20トンで33%、30トンで26%であり、10トン以下が高くなっていますが、平均的な使用量は20～30トンです。

水道事業の本来の目的である安全で安心な水の提供により公共の福祉の向上を図ることを目標に、今後の事業を運営していきたいと考えています。

次回に、一般家庭を安価にしたよりなだらかな曲線となる使用料金の改定案を提出させていただきます。

会長：他にご意見もございませんので、本日の審議会はこれで終わらせていただきます。

この議事録が真正であることをここに署名する。

平成19年8月2日

署名委員

山本俊博

児嶋正文